

15年度ホクレン帯広支所青果物販売 過去最高413億円 販売額10%増

ホクレン帯広支所は、2015年度に取り扱った青果物の販売実績をまとめた。数量は前年度比1%増の45万9350トン、販売金額は同10%増の413億7500万円に達し、過去最高となった。食用ジャガイモなど多くの品目で販売単価が前年度より高く、販売金額が伸びた。

食用ジャガイモ単価高騰

最も取扱量の多いジャガイモでは、生食用が九州産が干ばつなどで不作だったことから市場に出回る数が減り、単価が高騰した。特に年明けから高く推移し、道外市場の平均販売キロ単価は年末の87円が2倍になった。ポテトチップスや冷凍食品などの加工用ジャガイモも豊作傾向だった。数量は作付面積の減少などで前年度を1%下回ったが、単価の上昇で販売金額は同12%増の191億7200万円と好結果だった。

ナガイモ（4～10月が前年産、11月以降は当年産）は、数量が同5%増の3万トン。販売金額は豊作だった13年度の97億2000万円を超過6%増の97億7200万円となった。輸出も継続して行った結果、相場は1キロ当たり318円と安定した。

ダイコンは作付面積は前年と同じまたは微増だが、年間を通して天候に恵まれたことで歩留まりが良く、数量は同3%増、販売金額は同7%増の42億7800万円となった。

ニンジンの数量は同2%減の2万5650トン、販売金額は同16%増の29億100万円。計画的出荷ができたことから、単価も同19%高い1キロ113円と高値安定した。

タマネギは、J A帯広かわにしなどで加工用の作付面積が増えていて、数量は1万6730トンで同42%増えた。販売金額は10億4100万円と10億円の大台を突破した。た

だ全道的に大豊作だったことや加工用は生食用に比べて単価が低いことから、単価は1キロ62円と同20%低くなった。

ホクレン帯広支所が扱う青果物は、十勝だけでなくダイコンなど一部で釧路地区産も含んでいる。

同支所青果課は「数量が前年までと変わらない中、単価が前年度109%となるなど市況に恵まれて取扱金額が伸びた」としている。

青果物の販売実績 2015年度 ホクレン帯広支所扱い				
主な品目	数 量 (トン)	前年度 比(%)	金 額 (万円)	前年度 比(%)
食用ジャガイモ	32万2460	99	191億7200	112
ナガイモ	3万0740	105	97億7200	106
ダイコン	4万1350	103	42億7800	107
ニンジン	2万5650	98	29億0100	116
タマネギ	1万6730	142	10億4100	114
キャベツ	5360	88	4億8700	102
ゴボウ	2690	105	4億2800	109
ハクサイ	3520	102	3億0700	117
カボチャ	2930	99	3億1300	94
トウモロコシ	1340	86	2億8900	119
ユリ根	240	109	2億0900	108
アスパラガス	130	127	1億2500	128
その他	6220	99	20億5200	110

十勝製糖3工場15年産 ビート糖15%増の29.7万トン 過去10年3番目

道農政庁などは2015年産ビート糖の生産実績をまとめた。日本甜菜製糖芽室製糖所、ホクレン清水製糖工場、北海道糖業本別製糖所の管内3製糖所の合計生産量は、前年比15%増の29万7630トン。7年ぶりの30万トンには達しなかったが、過去10年間で3番目に多かった。



生産量、糖分ともに前年を大きく上回ったビート生産（2015年10月）

気象好条件、防除も効果

製糖所別の生産量は、日甜芽室が17万1030トン（前年比12.3%増）。糖分は17.7%。作付面積は1万4094ヘクタールで、1ヘクタール当たりの収量は68.99トンだった。

ホクレン清水の生産量は6万1900トン（同21.1%増）。糖分は17.8%。作付面積は5644ヘクタールで、1ヘクタール当たりの収量は64.61トン。

北糖本別の生産量は6万4700トン（同16.9%増）。糖分は17.3%。作付面積は5994ヘクタールで1ヘクタール当たりの収量は63.4トンだった。